

系列カテゴリ法データの分析プログラム

PCatJudgML1.exe

系列カテゴリ法データを分析するプログラム PCatJudgML1.exe を起動すると、図1のフォームが提示される。

	ラベル	Cat. 1
1番目		

図1 起動時のフォーム

「追加(行)」ボタンおよび「追加(列)」ボタンをクリックして、グリッドの行数と列数を刺激の数とカテゴリの数に合わせて増やす(図2)。

	ラベル	Cat. 1	Cat. 2	Cat. 3	Cat. 4	Cat. 5	Cat. 6	Cat. 7
1番目								
2番目								
3番目								
4番目								
5番目								
6番目								
7番目								
8番目								
9番目								
10番目								

図2 行数と列数の調整

行数と列数の調整後、データを設定する。図3は本書表1.8のデータを設定したものである。

	ラベル	Cat. 1	Cat. 2	Cat. 3	Cat. 4	Cat. 5	Cat. 6	Cat. 7
1番目	St.1	41	8	1	0	0	0	0
2番目	St.2	30	18	2	0	0	0	0
3番目	St.3	15	18	11	5	1	0	0
4番目	St.4	2	15	23	9	1	0	0
5番目	St.5	1	6	15	19	6	2	1
6番目	St.6	0	1	10	16	15	8	0
7番目	St.7	0	0	3	12	17	14	4
8番目	St.8	0	0	0	4	12	15	19
9番目	St.9	0	0	0	2	6	12	30
10番目	St.10	0	0	0	0	1	6	43

図3 データ(本書表1.8)の設定

設定したデータは、「保存」ボタンのクリックで保存することができる。保存は CSV 形式でファイルに書き出される。保存したデータは、図1のフォームにおいて「読出」ボタンをクリックすると読み込むことができる。「読出」ボタンをクリックすると、図4のファイル名設定のダイアログボックスが表示される。

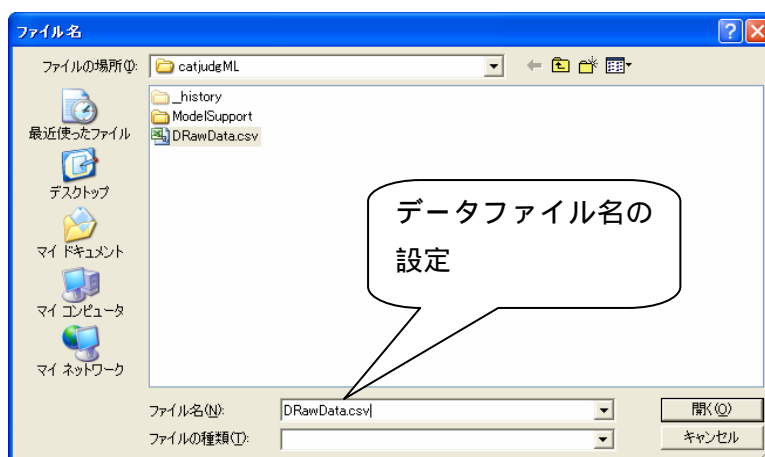


図4 読込データファイル名の設定

入力データファイルは CSV 形式で書き出されているので、ファイル名の拡張子は「.csv」である。ファイル名の設定後、「開く」ボタンをクリックすると図3のフォームになる。

データの設定後、「計算」ボタン(図3)をクリックすると計算が始まるが、まず計算結

果などを書き出すテキストファイルの名前の設定を求めるダイアログボックスが表示される(図5)。

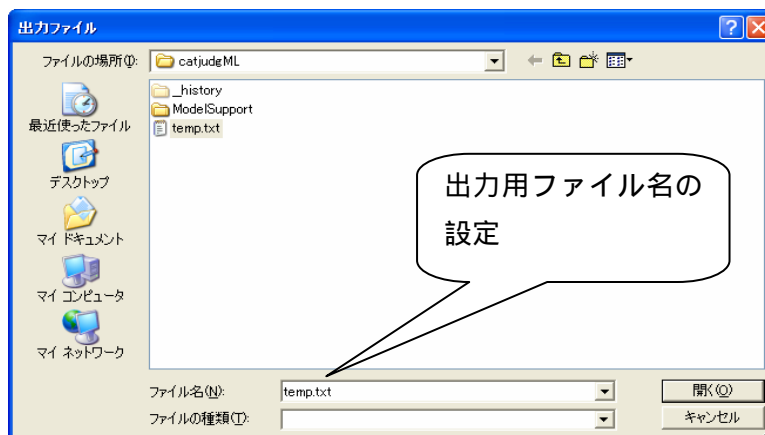


図5 出力ファイル名の設定

出力ファイルはテキストファイルなので、ファイル名の拡張子は「.txt」としておくと便利である。ファイル名の設定後、「開く」ボタンをクリックすると、計算が始まる。計算は短時間で終了し、プログラムの実行終了となる。プログラムの終了後、出力ファイルをエディタで開くと図6のように計算結果などが書き出されている。

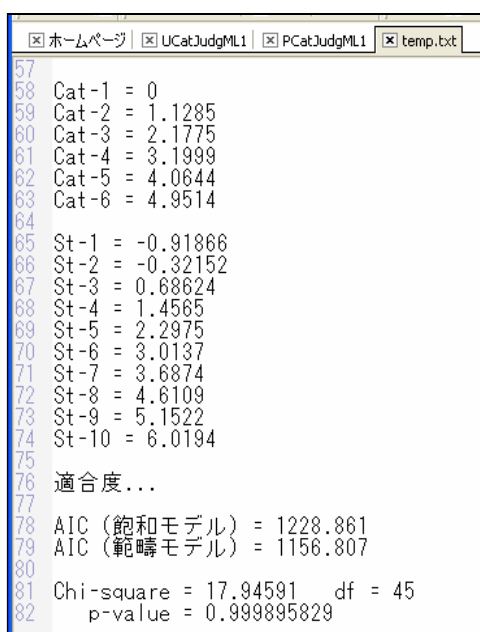


図6 出力ファイル例

図6は、表1.8のデータの分析結果なので、本書本文中に記載されているもの、および表

1.11 に示されているものと同じ内容である。